

JFA のガイドラインより

- ・「新しい日常」・「新しい生活様式」への適応

コロナ前の日常が即座に戻ることは無いということを前提に、置かれた状況の正確な分析・理解に基づくガイドラインを設計する

- ・サッカー界の抜本的見直し

今回のコロナ禍を契機とし、組織の在り方や個別事業の設計について抜本的な見直しを図る（リスクとチャンス）

【安全を最優先にリーグを行う】

生命、健康の安全を最優先に、感染拡大リスクを最大限に排除した、選手・チーム・指導者・運営スタッフ等、フットボールファミリー全体が安全に活動できる環境を協力し作る

- ① 各チーム健康管理者を置き、試合の2週間前から選手・スタッフの健康チェックを行うこと。個人用チェックシートは感染者が発生した時に備えて、健康管理者が必ず1ヶ月保管する。
試合当日は、※チームとりまとめ健康チェックシート を提出。
- ② 来場者は必ずマスクを着用し、入り口にて検温・手指消毒を行ってから入場すること。体温 37.5 度以上は入場を認めない。
- ③ 参加申込書の役員欄に記載している者の中から最小限のスタッフで試合に参加すること。※メンバー表に記載されていない者はベンチ入りできない。
- ④ 選手・役員、追加や移籍があった場合は、申込書を再度事務局へメール連絡し試合当日に、選手証を提出すること。※選手証のコピーは一覧印刷で提出。
- ⑤ ベンチでは、選手個々に指定した位置へ戻り着席すること。スタッフはマスク着用。
- ⑥ ベンチではビブスを着用し、交代の際はベンチに置いておく。※入退場のルールは厳守
- ⑦ チームで消毒剤を準備し、定期的に手洗い・消毒を行う。
- ⑧ メンバー表は本部で受け取り、試合開始30分前までに提出すること。
- ⑨ 試合開始時にメンバーチェックが完了していない選手は、試合に出場できない。
- ⑩ 試合前後の挨拶は行わない。円陣やハイタッチなどは禁止とし、接触を避けること。
- ⑪ 前後半のベンチ交代は行わない。※試合後ベンチの消毒を各チームで行うこと。
- ⑫ タオル・マイボトルを準備し、アイシングバックなども共有しない。
- ⑬ オフィシャルは最小人数で行うこと。主審・副審（3級ライセンス者）三審・タイマー（4級でも可※審判服着用）記録員1名・ボールパーソン5名。合計10名
オフィシャルで使用する 机や椅子、器具等は使用者がこまめに消毒をすること。
- ⑭ 体育館は禁煙とする。ドームでは、密にならないように配慮すること。
- ⑮ ミーティングや着替えは手早く行い、間隔をあけて密にならないこと。
- ⑯ 高知県の活動レベル※図①参照が、1又は2になった場合は、リーグ開催を協議する。
- ⑰ チーム内でコロナ感染が発覚した場合は、速やかにリーグ運営へ連絡すること。
※感染疑いの段階でも連絡すること。参加者に注意喚起を行う。
参加者に感染者が出た場合は、リーグを中止し、保健所の指示のもと自粛要請を行う。
感染被害の状況や、会場利用の許可が出れば、リーグ再開も検討する。
※参加者がコロナ濃厚接触者と特定された場合も、状況を確認し、開催を検討する。
- ⑱ コロナ対応により、試合を棄権することになった場合は スコア 0-5 とするが、勝ち点の没収は行わない。

感染リスクをゼロにすることはできません。参加チームは、その点を理解した上で参加していただくとともに、関係者への周知と、対策の実行をお願いします。

※図①

活動レベル	対象	入場者数
1 緊急事態宣言	当該都道府県が対象の地域	—
2 感染拡大注意	当該都道府県が対象の地域	最大 50 人程度
3 感染観察	当該都道府県が対象。他地域で政府の 3 区分が混雑	100 名以下、かつ定員の 50% 以下
4 感染観察	全ての都道府県が対象の地域	制限なし
5 感染観察	全ての都道府県が対象	制限なし

●リーグが中止になった場合

リーグの再開ができないと判断した場合、余剰金を各チームに返還する。

四国チャレンジへの参加チームを決定しなければならない（四国リーグ入れ替え戦が実施される場合）為、チャレンジリーグについては、四国チャレンジの基準（フットサル C 級ライセンス保持者がチーム登録されている事）を満たしたチームで順位決定戦を行い、出場チームを決めることとする。※状況を見て、開催や決定方法は検討する。